

【要約】

高水温下でも形態異常が少なく、正常に生長する新品種の開発を試みました。

【背景】

ノリ養殖初期の10～12月の海水温は昭和50年代から平成20年代にかけて2.1～2.4℃上昇しています。高水温はノリ葉体の形態異常の原因となるため、養殖開始時期が遅れることとなり、その結果、漁期が短くなります。この対策として、高水温下でも葉体のくびれ等の形態異常が少なく、正常に生長する新品種の開発を試みました。

【結果】

1 高水温耐性候補株の特性把握

(国研)水産研究・教育機構が開発した高水温耐性候補株である4Cは、野外養殖試験において、元品種のアオクビ、標準品種 U-51よりもノリ葉体の形態異常の発生率が低く、高水温下でもくびれ等の形態異常が少ないものと推察されました。

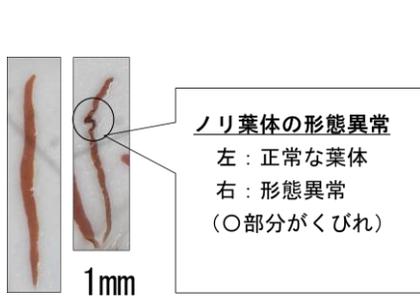


図1 正常なノリ葉体とくびれたノリ葉体

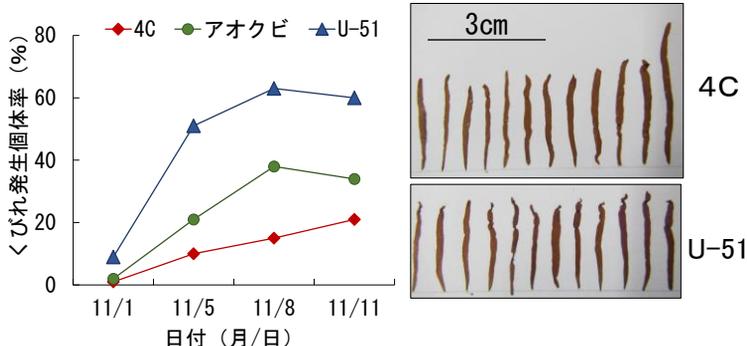


図2 養殖試験におけるノリ葉体のくびれ発生個体率の推移

2 岡山の海に適した選抜株の作出

4Cの中から、岡山の海に適した株を選抜するため、特に生長の良い葉体から作出した2株(4C-5株および4C-6株)について、野外養殖試験で特性評価を行ったところ、2株とも高水温時のくびれ発生個体率の低減に寄与する特性を有すると考えられましたが、葉厚が厚い傾向にあり、手触りが硬めでした。

表1 野外養殖試験時のU-51の値を1としたときの4C、4C-5および6の値

項目	R2年度		R3年度
	4C	4C-5	4C-6
くびれ発生個体率	0.35*	0.54*	0.51*
葉長	育苗期	1.12*	1.19*
	養成期	1.05	1.09
葉厚	0.82*	0.93*	0.90*

※アスタリスクは有意差があることを示す